

熊本県立八代農業高等学校 令和元年度(2019年度)学校評価表

1 学校教育目標	
【校訓】	礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く
【教育目標】	自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成
【教育スローガン】	「創造！新たな歴史を～元気と勇気と根気～」 ～何事も一生懸命に頑張る力を身に付ける～
【教師の姿(くまもとの教職員像)】	
(1) 基本的な資質	(2) 専門性
ア 教育的愛情と人権感覚	ア 生徒理解と豊かな心の育成
イ 使命感と向上心	イ 学習の実践的な指導力
ウ 組織の一員としての自覚	ウ 保護者・地域住民との連携
【生徒の姿(助け合い、励ましあい、志高く)】	
(1) 元気 優しい心で元気なあいさつができる生徒	
(2) 勇気 何事も果敢に挑戦し失敗を活かすことができる生徒	
(3) 根気 夢を抱き一生懸命に頑張ることができる生徒	

2 本年度の重点目標	
【教育指導の重点】 「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指して 人間尊重の精神をすべての教育の根幹におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人一人の教育的ニーズや学校評価による課題の把握に努め、学校間及び家庭・地域社会との連携を図るとともに、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行い、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として必要な「生きる力」の育成を目指す。	
(1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実	
(2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実	
(3) 道徳教育の充実と命を大切にす心の育成	
(4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚を醸成	
(5) 体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	教育目標及び重点目標の周知・理解	全職員が共通認識として実践する。生徒、保護者に教育目標を認知させる95%以上	職員会議や研修等で常時啓発する。教室への掲示、学年集会等、全校集会での周知。PTA総会、広報誌、HP等を通じて啓発を図る。	C	教育目標、重点目標の周知をPTA総会、ホームページの活用等で啓発に取組み、関係者に理解されていると回答した生徒78%、保護者77%が理解していると回答し、目標とする95%は及ばなかった。職員は88%であり、掲示の工夫や日頃の学習活動、学校行事等で継続した啓発が必要。
	生徒募集	募集定員の確保	募集定員の80%以上の志願者確保	中学生対象アンケートの実施、中学校訪問での進路意識の把握、体験入学、HP等などで特色ある学習内容の広報の充実を図る。HPを活用し、定期的に各行事、学科毎の学習状況を更新し情報発信を強化する。	C	新たな取組として、「中学生体験入学・入試説明会」、「学校パンフレット作成」、「R2年度生徒募集プロジェクト」のチームを編成し、各チームのスケジュールを連動させ中学校訪問を実施。さらに今年度も10月のオープンスクールを計画実施するなど、中学校への募集活動を積極的に行った。前期選抜では昨年より6人増であったが、目標に届かなかった。HPを活用し学校行事、各学科の特色ある学習の様子、進路情報の発信ができた。生徒募集の観点からも、より魅力を伝える情報発信の工夫をする必要がある。
学力向上	確かな学力の育成	基礎学力の向上	確認テストの平均点が1回目に比べ2回目まで2点増加(10点満点中)	学習教材「一日一善」を活用した基礎学力の向上のため朝学習の充実を図る。	B	10点満点の2点増は、1回目の平均点が8点と高くなり2回目の目標設定の見直しが必要であった。平均点1学期

					0.63、2学期0.25と上昇したので、各クラス学年の取り組みの成果が見られた。基礎学力向上が大きな課題であるので、少しでも自信につながるよう継続していく。学校評価アンケートの結果、取り組んでいるかの間に「あてはまる・とてもあてはまる」が生徒83%、保護者84%、職員84%となった。	
		知的好奇心の喚起	学ぶ興味や学習性向上 楽しさや興味が高まる 展開の適切な信頼性等	学期毎に1回公開授業週間を設定する。研究授業を各教科1回以上実施し、参加者を増やす。指導と評価の一体化を指し、学期毎の成績評価と年2回の授業評価を実施することによって課題を明らかにし、授業改善につなげる。	B	研究授業は、計画通り実施することができた。指導案をつくり、実施することで力量が増すと思うので、今度も続けたい。授業評価は2回分の結果を視覚的に比べられるよう集計用紙を工夫しているので、今後の授業改善に役立ててもらいたい。学校評価アンケートの結果、授業改善に努めているかの間に「あてはまる・とてもあてはまる」が生徒76%、保護者84%、職員87%となった。
キャリア教育(進路指導)	組織的な進路指導	計画的な進路指導	進路目標に合わせた個別指導の充実 第1回基礎学力診断テスト、第3回基礎学力診断テストの+10%の向上。	面接指導、小論文指導など指導計画を作成し、早期に取り組む 教務部と連携した基礎学力定着の取り組みや「登竜門」の活用と振り返り学習	C	外部機関による面接練習会を計画し、進路実現につながった。 登竜門の改訂が進み、内容が充実した。 基礎学力診断テストの第1回から第2回では、D3ゾーンの17人数は減少したが、Bゾーンは増加していない。第3回の結果は、2月下旬。
		進路意識の向上	個人面談・進路相談会の実施 具体的な進路目標を立て3年生の進路未決定者0名以内	家庭との連携や職員同士での情報共有 個人面談、三者面談による生徒の進路希望の把握 「進路ナビ」の改訂を進め、活用の充実を図る。	B	「進路ナビ」の改訂が進み内容が充実した。 キャリアサポーターによる個人面談などを実施し、生徒の進路希望を把握した。現在進路未決定者は、10名いるが、これから受験など方向性が見えている。
	勤労観・職業観の育成	自己実現への意欲向上 キャリア教育の充実 個々の適性に合わせた進路選択	外部講師による進路講話の2回以上実施 早期離職防止教育の充実 学習環境の整備と情報提供の充実	職員による講話や外部講師による進路ガイダンスを実施 定着指導のための企業訪問や情報収集や情報共有 進路資料の整理を行い、月に2回以上進路情報の発信	B	外部講師による講話は、生徒の刺激になり、進路への意識が高揚した。 キャリアサポーターに企業訪問をしてもらい、情報収集・共有をした。 進路閲覧室の整理が進み、生徒への情報提供が充実した。
生徒指導	規範意識の高揚	校則の遵守と基本的生活習慣の確立	挨拶や時間、整容、正しい言葉遣い、社会ルールなどの遵守 特別指導件数の20%改善	登校指導やHR、授業などでの規範意識を育む指導や全校集会での道徳講話及び、交通教室の開催	A	懲戒による特別指導件数50%減。(交通違反0)であった。また、整容検査合格率100%8クラス延べ24(目標値100%達成7クラス・延べ14クラス)であったことから、規範意識が向上したと考えられる。今後は遅刻者数26名/週(目標値19名/週)という現状の改善が課題である。
		生徒指導方針の共有	生徒指導方針に則った指導の実施。学校評価アンケート3.0以上	職員研修等による生徒指導方針の周知と職員間の連携	B	職員研修、職員朝礼を通して生徒指導方針の共有を図った。学校評価アンケートでは3.325ポイントという回答であり、共有が進んだと考えられる。(設問変更の為、関連回答から推察)今後、法改定等に併せ、指導方針の変更を予定しているため、混乱を生じ

					させないことが課題である。
中退者対策	学校生活への適応	学校生活満足率、全般・交友情感90%、自尊心67%以上	人間関係スキルアップトレーニングの実施 宿泊研修の実施	C	新入生の適応指導が十分に機能せず68名中、7名が進路変更した。学校生活満足度アンケートにおいて「全般」82.9%と低下した理由を検証した結果を次年度の新人生対応に生かすことが必要である。（「自尊心」は71.1%で目標値を超えることができた。）
	細やかな指導の確立	個々の生徒の実態把握	QUテスト、Σ検査、いじめアンケート、自己肯定感アンケート等の活用 面談週間、新たな絆をつくる面談の実施。毎週の集約、分析。	B	テスト、検査、アンケートの結果を学校全体で共有し、組織的に生徒を指導することが出来たが、結果的に進路変更者がでた。新たな指導方法の確立が課題である。
部活動の活性化	意欲的な活動を通じた自己肯定感の高揚	部活動に加入している生徒の割合（3年生は総体・総文）での継続率80%以上	自主的・自発的な活動を支えるための環境づくりと事故やトラブルの未然防止の徹底 部活動の精選	B	継続率80.4%であり、年間を通して意欲的な活動が出来ていると考えられるが、加入率の低さが課題である。
	国のガイドライン及び熊本県が策定した「高等学校における運動部の指針」に基づく、適正な運動の実施	熊本県の指針に基づく本校の運動部活動に係る活動方針の策定及び各部活動の公表	本校の運動部活動に関わる活動方針の策定 それに基づく活動計画・実績のホームページでの公表 上記項目のチェック体制の整備	B	具体的方策である、本校の運動部活動に関わる活動方針の策定とそれに基づく活動計画・実績のホームページでの公表。さらには上記項目のチェック体制の整備と全て行うことができた。
人権教育の推進	良識ある関係の育成	人権意識の啓発	生徒や保護者、職員の人権意識の向上	B	全員の先生方に2つ以上の研修に参加していただいた。年3回の校内職員研修や人権教育講演会を実施し人権意識の向上を図ることができた。
	推進体制の確立と充実に努める	教職員の実践的指導力の向上	LHRにおける人権教育の充実	B	3年間を見通しての人権LHRを計画通り実施した。昨年のアンケートの結果をふまえ、さらに改善を加えた。
	命を大切にする心を育てる	自己実現に向けた意識向上と達成に向けた取り組み支援	他の部署と連携し、自尊心を高める授業を展開。SNSなどにまつわる人権問題についての認識を深める	B	生徒指導部と連携し、LGBTをはじめとする様々な人権問題についての基本認識を深めた。人権意識を授業に活かすための研修も実施した。
いじめの防止等	年間指導計画の改善	年間指導計画を検証し見直す。学校評価アンケート3.6ポイント以上	いじめ防止対策委員会を経て、現状に即した具体的な活動計画を作成	B	学校評価アンケートは3.4ポイントと目標値を下回った。（設問変更の為、関連回答から推察）いかに担任の多忙感を減らすかが課題である。
	いじめの防止	日常の学校生活における未然防止の徹底	「いじめ防止基本方針」に沿った全教職員の共通理解と同一歩調での取組 ストレス対応プログラムの進んだLHRの公開授業の完全実施 取組状況を学期、年度ごとに検証し、次学期や次年度に活かす	B	SST公開LHRを実施できたクラスにおいては効果を体感していると報告があるが、学校行事との兼ね合いから実施できていないクラスがある。適切な実施時期の設定が課題である。
		未然防止に向けた取組	学期、年度ごとの検証	職員研修（年3回）、QUテスト活用説明会、学級アセスメント会議（各学級2回）を実施した。このことが未然防止に資したかは不明である。QUテストからアセスメント会議開催までの期間を短くす	B
			いじめアンケートやQU-U、シグマを活用した状況把握といじめ未然防止に向けた研修の実施。QU-Uに基づいた学級アセスメント会議の実施	B	

				Q Uテスト活用説明会の開催	ることが課題である。	
		早期発見・早期対応	いじめに関する実態調査	いじめアンケート及び心のアンケートを活用した早期発見と迅速な対応 アンケート後、事案把握・補完のための面談（B表）実施 新たな絆をつくる面談の実施 いじめ匿名通報アプリに対する適切な対応	B	アンケート、アプリ、面談を通して、37件の疑い事案を把握し早期に対応することが出来た。（認知は12件） 心に苦痛を受けやすい生徒が多数在籍している現状を受けて、アンケートの設問内容やアプリ利用説明を適切に生徒に伝えることが課題である。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会と連携し、地域連携の特色を確立し、学校協力を図る。	自主的に学んで育める。	地域の活動を通して、ボランティア活動に参加するとともに、地域住民とのコミュニケーションを深める。防災教育の3原則である知識・技術・心（自助、共助、公助）を軸とし、防災意識を高める。	地域の美化作業等に積極的に参加する。学校行事をHP、広報誌等で情報発信し、地域住民来校の機会を設定する。教科、集会等で各災害の発生メカニズム等の理解を図る。	A	地域と連携した防災（地震・津波）避難訓練を実施することができた。 全校集会やシェイクアウト訓練を実施することで、防災に対する「自助力」の意識向上に繋げることができた。
		災害時の地域連携体制の構築に取り組む。	防災・避難所体制の充実。防災時の危機管理体制の周知徹底。	学校運営協議会による学校体制及び対応の強化。定期的な校内の安全点検及び防火設備の使用の確認（職員研修の実施）。	B	八農版防災マニュアルを基に、学校体制及び地域、行政との連携強化ができた。 定期的な安全点検を実施したが、全職員への周知徹底が不十分な点もあった。
道徳教育	道徳性の涵養	全体的な活動の推進	学校行事等を通して愛校心、郷心の高揚 自己肯定観の深化 道徳性を涵養するホームルーム活動や授業の展開	校内、校外において本校生としての自覚を育成する指導の充実 実学を通しての自覚と責任感の育成 学校生活への満足度や愛校心が高まる指導の展開 誠勤礼タイム（定期）の講話やキャリア教育等を通して生き方を考えさせる 学校行事等を通して感謝の心を育てる	B	全体計画を年度当初明示し、学校全体の様々な場面で推進することができた。学校評価アンケートの結果、学校はマナーや礼儀の指導に取り組んでいるかの問は「あてはまる・とてもあてはまる」が、生徒83%、保護者81%、職員92%となった。
特別支援教育	特別な支援の必要が生じない対応	組織的な支援の実施	個別の指導計画作成率100%。 支援計画作成のマンナ化 確実な実施から引き継ぎをつくる	定例委員会の確実な実施 年間3回以上の職員研修の実施と情報の共有化システムの構築 就労支援の充実のため情報収集と職員、保護者への周知	C	定例委員会は実施できている。職員研修は5回実施することができた。就労の情報収集と職員への周知はかなりできている。保護者への周知はタイミングや内容を厳選しなければならない。
環境教育	環境調和の推進	環境保全活動の推進	環境保全活動の周知徹底 重要版ISO達成の徹底 学校版ISO達成の徹底 校内美化ボランティア活動の推進	各科での環境保全活動の実施 学校版ISO宣言項目の確認、実行 校内美化コンクールの実施 トイレ掃除点検表を用いた清掃強化 地域ボランティア活動の実施	B	校内美化コンクールやエコキヤップ回収活動やゴミの分別指導を実施した。また環境美化便りを発行し、エコ活動を推進し、更に掃除の仕方なども紹介した。各トイレの清掃活動表も配布し、日頃の校内美化意識の向上に役立てた。
保健管理	健康に関する指導体制整備	規則正しい生活習慣の確立	保健だよりを通じた基本的な健康知識の周知 各種講演会を通じた健康意識の啓発	薬物乱用防止、性教育講演会の実施 保健便りの定期発行 ICTを用いた保健授業の活性化 がん教育の実施	B	講演会は計画に基づいて実施され、生徒の意識も向上した。保健便りは定期的に発行し、生徒の興味がわくタイムリーな話題を提供した。

		保健相談の充実	保健環境部と教育相談・支援部との連携及び情報共有	毎月の来室者統計の担任配付と個別面談の実施	B	スクールカウンセラーとも連携し、必要に応じて相談し、対策を講じた。
安全管理	施設・設備の充実	施設、設備の安全の強化 危機管理意識の向上	生徒、職員が安心・安全に過ごせる学校づくり 不測の事態に対応できる学校づくり	学期毎に安全点検を実施 校舎内外の巡回を実施 心肺蘇生・アナフィラキシー対応研修の実施	B	定期的な安全点検を職員全員で行った。早期の危険箇所解消に大きく役立った。
専門教育	専門教育の充実	魅力ある地域R	農業クラブ、家庭クラブ活動の充実 魅力ある学習活動の積極的な発信	授業・実習から研究につなげた課題解決学習・プロジェクト学習 活動の精選から、より効果的な交流活動・地域イベント等への参加 記者クラブへの投稿・各学科HPブログの毎週更新 八農祭等で学習成果を地域へPR 各学科におけるアンケートの実施	B	プロジェクト学習を柱に、経営感覚や製品の原価計算などより実践的な学びを実施できた。 地域イベントや小中学校との交流など地域連携を踏まえた交流活動ができた。 記者クラブへの投稿8回、HPのブログも各学科年間30回程度更新できている。 八農祭等の取り組みで、地域に各学科の特色ある学習内容を発信できた。
	高い専門性の育成	専門性の向上を系習 性将来の学習 と据えな 統展開	新学習指導要領に沿った学習指導の専門性を高めるための各活用(70%以上)	主体的・対話的で深い学びの実戦に向けた授業改善 GAPやHACCP教育の推進 各学科における先進地視察や講師招聘授業の実施	B	各学科、新学習指導要領に応じた学習指導や評価を段階的に取り入れることができている。 GAP・HACCP教育を取り入れ、実践している。 各学科講師招聘や先進地視察を実施し、生徒の技術向上や意欲向上につなげることができた。

4 学校関係者評価

・今後も引き続き学校でやれること、生徒がやれること、保護者がやれることをそれぞれの組織体で検討をし、その部門間の連携をしていくことが大事だと考えます。

・「挨拶」は基本中の基本、笑顔で活気あふれる学校作りをお願いしたい。

・小中学校との連携した行事や、子育て支援センターとの連携等、さまざまな体験や地域連携を評価します

・生徒の行事に応じた自主性をもう少し汲み取って頂けると良いかと思えます。

・学習教材「一日一善」を活用した基礎学力の向上の取組は保護者として感謝しています。

・校則をPTA総会等でその重要性和目的を保護者に周知するなどの対策が必要である。

・学校発信のいじめ防止策だけでなく、PTAとしてのいじめ対応も必要な時代だと特に痛感しています。

・地域住民との防災訓練は、モデルケースになるよう今後も実施して頂き、保護者への周知も図って頂きたい。

・SNSを利用し、微力ながら保護者の立場で卒業生、生徒の学校への関心を惹きつけていけるよう情報発信を続けたいと思う。

・受験生が減少する中の地域の農業高校の教育方針は地域の小中学校で指導の及ばない児童・生徒のフォローを目指している。

・八代農高の生徒さんが、私の地域に居られることが喜びです。講演会などの聴く姿も立派でである。

・全職員、PTAの協力のもと、学校運営をなされており、評価をもう少し上げて良いのではと思う。

・愛校心、愛郷心の高揚に期待しています。

・八農祭での各学科の取組は生き生きとしていて、八農生らしさが出ており評価できる、全生徒が八農高に入学して良かったと言ってもらえる様、願っています。

5 総合評価

○学校評価アンケートの保護者回答率は95%とアンケートに多くの保護者に協力いただいた。今年度から設問数を絞り込み、生徒、保護者、職員の設問を統一し意識の差があるかも含め実施した。設問に対し、生徒と保護者ともに「あてはまる」「よくあてはまる」の評価に75%以上が回答し、本校の取組みについて多くの方に御支援と御理解をいただいた結果であり、各方面からの協力や支援体制ができていると判断する。特に生徒たちの体育大会や八農祭での生き生きとした明るく積極的な姿から、日頃の活動を生徒・保護者にPRでき十分理解していただいた結果だと考える。オープンスクールの2回実施等、本校の教育活動を地域の方々に見ていただく機会を設けたが、参加人数を増加させる手立ての検討が必要である。

○生徒指導部、教育相談部が連携し、いじめ防止・生徒理解に取組み、学期毎の全生徒対象のアンケート実施、教育面談で得られた情報の集約と全職員での共有化による生徒理解に努め、支援が必要な生徒をスクールカウンセラーや外部専門機関と連携しながら、校内支援体制の確立に努めた。しかし、本校に入学して良かったと楽しく学校へ通う生徒は76%にとどまった。

○生徒の学力向上と進路保障の面からも、本校独自の基礎学力校の定着に全職員共通理解のもと指導に取組んできた。学習指導面ではまだまだ十分な学力向上に至っていないので「UD化」を意識し、生徒自ら授業の見通しができ、自分の考えや意見が言え、主体的に学べるような授業展開を実践することで進路実現につなげていきたい。

○進路状況については、農業経営者を目指し進学後就農予定6名、即就農3名（雇用就農1名含む）となった進学は、県立農業大学校へ5名進学をはじめ看護学校等、18%が上級学校へ進学することとなった。就職では、基本的な生活習慣の確立を含め、進路指導部を中心にキャリアアドバイザーの新規企業開拓、進路相談、面接指導等で適切な指導を進め、学校紹介での内定率100%となり、離職率減少のための内定者セミナーも実施した。また、海外に視野を向けタイへの短期留学を実施する生徒もでてきた。

6 次年度への課題・改善方策

○新学習指導要領学力向上は、2回の授業評価アンケート結果から、日頃の授業の工夫改善の積み重ねが重要である。支援が必要な生徒など多様な生徒が入学する中、継続した「一日一善」や「登竜門」の取組から確かな学力の定着と「学びなおし」の指導も含めた「わかったという達成感」と「学ぶ楽しさ」を育成の今後も取組んでいく。『生徒が主体的に学ぶ』授業の展開を全ての教科で実践し、授業のUD化を踏まえた「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を更に心がけ授業研究に取り組み、教師の指導力向上に努めるとともに、オープンスクールや公開授業の充実を図る。

○生徒の進路実現のために、専門教育のさらなる充実と日頃の学習指導、個別指導等を実施するとともに、農業経営者及び地域産業の担い手の育成に取組む。さらに、新学習指導要領の改訂に伴う令和4年実施に向け、生きる力を育む特色ある教育活動を目指した教育課程の編成に取組む。

○生徒理解研修や一斉教育面談等を通して生徒の実態を把握し、課題の早期対応、早期解決に全職員で取組む。施設設備の安全管理も含めた「生徒が安心して学校生活を送れる体制づくり」を実践する。生徒一人ひとりに向き合い、人権尊重の精神に基づくいじめのない楽しい学校生活を送れるよう支援する。

○本校の特色ある学習内容、行事・地域での活動等を通して、生徒の生き生きとした学校生活の様子を、適時にホームページで発信するとともに、八農メール等を活用し周知する。地域広報誌、クラスだより等を活用して広くPRし保護者や地域の理解を得るとともに、関係機関との連携を強化し、一人ひとりの生徒が輝ける活動の場を広げ学校の活性化を図ることで生徒募集に繋げる。